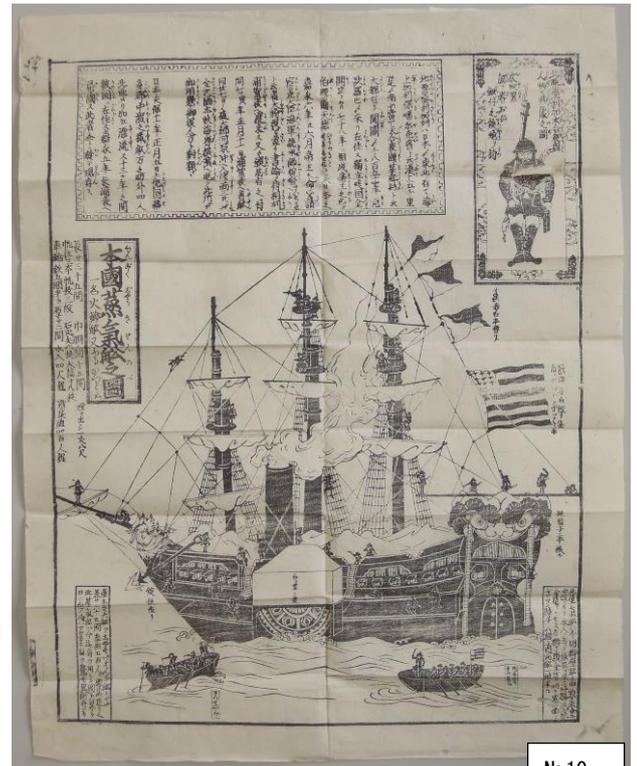


No.6



No.10

No.28 (第3紙)

展示解説

文化財〈古文書〉展示

一挙公開！幕末のかわら版

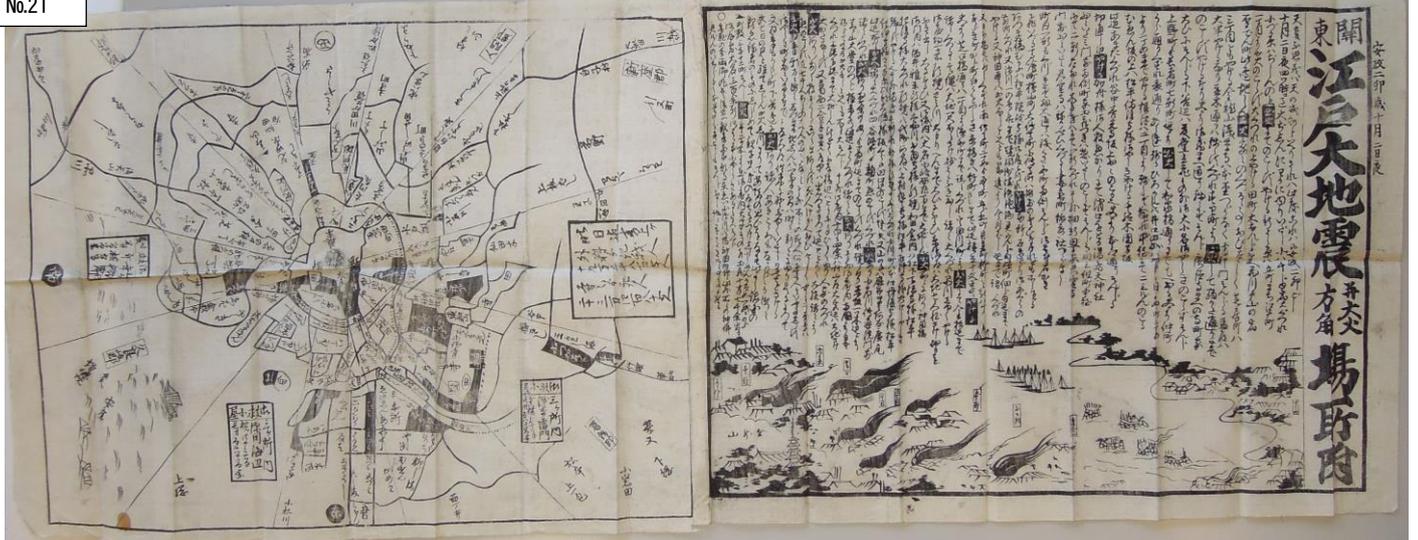


~ア/事件から  
コ/事件まで~

平成 26 (2014) 年  
精華町教育委員会



No.21



## ② 黒船来航

嘉永6(1853)年6月、アメリカ合衆国のペリーが艦隊を率い、日本との国交と通商を求める大統領の書翰を携え、浦賀沖(現在の神奈川県)にやってきました。ペリーは巨大な蒸気船(黒船)で武力をちらつかし、大統領の書翰を日本(徳川幕府)に受理させました。

その後、ペリーはいったん日本を離れますが、翌年の嘉永7(1854)年1月に日本側の回答を求めて、再び江戸湾にやってきました。幕府は戦争を回避するためにはこれまでの対外政策(いわゆる「鎖国」)を改め、一定の「開国」が必要だと判断し、横浜でアメリカ側と交渉を開始しました。その結果、同年3月、日米和親条約を調印し、下田(静岡県)・函館(北海道)の開港などが決定されました。

こうしたペリーの来航は、日本国内のあらゆる人々に大きな衝撃を与えました。当時の精華町域も、黒船来航の影響と決して無縁ではなく、多様な関係資料が残されています。

### No.8

蒸気船図 (「嘉永六丑年六月浦賀表へ異国船渡来二付御固御役人附」の内)

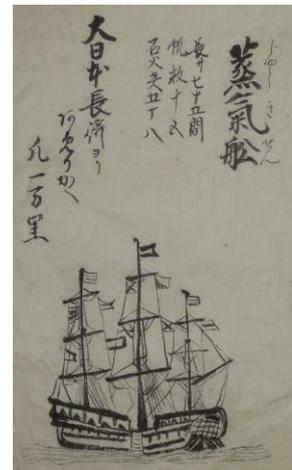
嘉永6(1853)年6月

個人蔵

下粕村の庄屋が描いた「蒸気船」の絵です。

嘉永6(1853)年6月、1回目のペリー来航時に江戸湾の警固を担当した諸大名らの名前を書き写した帳面(縦帳)のなかに描かれています。「蒸気船」と書かれているものの、これは帆船の姿で、当時流布した瓦版などから写し取ったものと考えられます。

「大日本長崎ヨリあめりかへ凡一万里(約4万km.)」と記されており、精華町域の人々もペリー来航に大きな関心を寄せていたことを示す史料です。



(部分)

No.9

嘉永六丑年六月初旬アメリカ船渡来之図

嘉永6(1853)年6月

森島國男家文書 C2293



嘉永6(1853)年6月、1回目のペリー来航時に、アメリカ艦隊4艘が江戸湾に進んだ航路を描いた図面です(手書き、彩色あり)。

6月3日に浦賀沖に現れ、9日には「栗濱」=久里浜(現在の横須賀市)へ来ています。この久里浜の地にペリー一行は上陸し、アメリカ大統領の書簡を幕府役人に渡しました。その後、幕府を威嚇するため、10日には江戸間近の羽田沖(現在の羽田空港付近)まで蒸気船を進めました。

No.10

瓦版 本国蒸気船之図

嘉永7(1854)年

森島國男家文書 C2332

ペリー艦隊には、1回目(嘉永6年)は全4艘の内2艘、2回目(嘉永7年)は全9艘の内3艘の蒸気船が含まれていました(サスケハナ号・ミシシッピ号・ポーハタン号)。当時の最新鋭の巨大軍艦で、石炭を燃やして中央の車輪を回転させました。【写真は表紙参照】

No.11

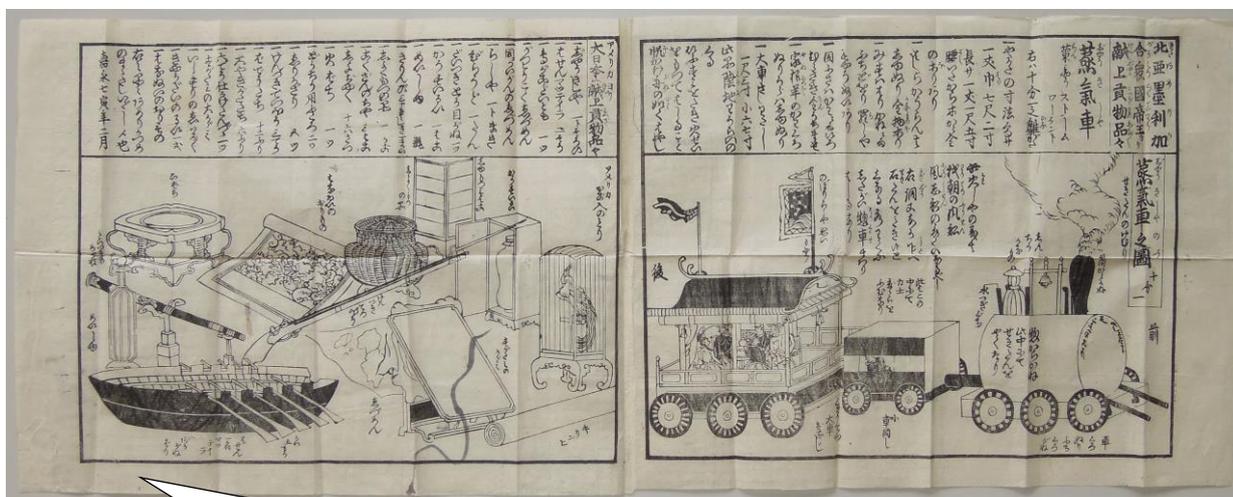
瓦版 <sup>きた あ め り か</sup> 北亜墨利加 <sup>みつぎもの</sup> 合衆国帝王ヨリ献上貢物品々

嘉永 7 (1854) 年

森島國男家文書 C2333

嘉永 7 (1854) 年 2 月、横浜で幕府がペリー一行を応接した時、アメリカ大統領（瓦版では「帝王」）から日本へ贈られた品々を描いた 2 枚続きの瓦版。品名目録を手掛りに絵師が推測で絵を描いたようで、実際には贈られていない品物も混じっています。

贈り物のなかでも特に注目を集めたのは、蒸気機関車（瓦版では「蒸気車」）の模型で、瓦版には 10 分の 1 とありますが、実際は 4 分の 1 のサイズでした。蒸気機関車を走行させたところ、日本人は興味津々で、客車が小さいので屋根にまたがり乗る大人もいました。



★小ネタ★

「マツテイラ」とは、小舟・ボートを表すポルトガル語「バツテーラ」(bateira) のことです。大型船から陸地に移動する「はしけ」として用いられました。この小舟の形に似ていることから、サバの押し寿司を「ばってら」といいます。



No.12

瓦版 <sup>きた あ め り か</sup> 北亜墨利加 <sup>しよこうおかためず</sup> 渡来につき諸侯御固図

嘉永 7 (1854) 年

森島國男家文書 C 2327

嘉永 6 (1853) 年の 1 回目のペリー来航後、幕府は品川に台場（砲台）を築き、江戸湾の防御体制を強化しました。また、大名（藩）や旗本に湾岸の警固（御固め）を命じました。

厳重な警備のなか、嘉永 7 (1854) 年 1 月、再びペリーが艦隊 6 艘にて江戸湾へやってきました。この瓦版は、下段に各藩の警固配置図、上段に大名の家紋などを描いたもので、当時はさまざまな種類の「御固図」が発行されました。

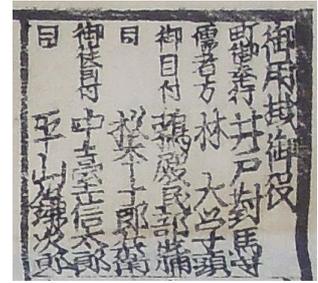
なお、この瓦版の右下には森島清右衛門の筆跡で、〈本来 16 文（現在の約 400 円）のところ、12 文（約 300 円）に値切った〉旨の書き込みがあり、瓦版の値段が分かるのも興味深い点です。



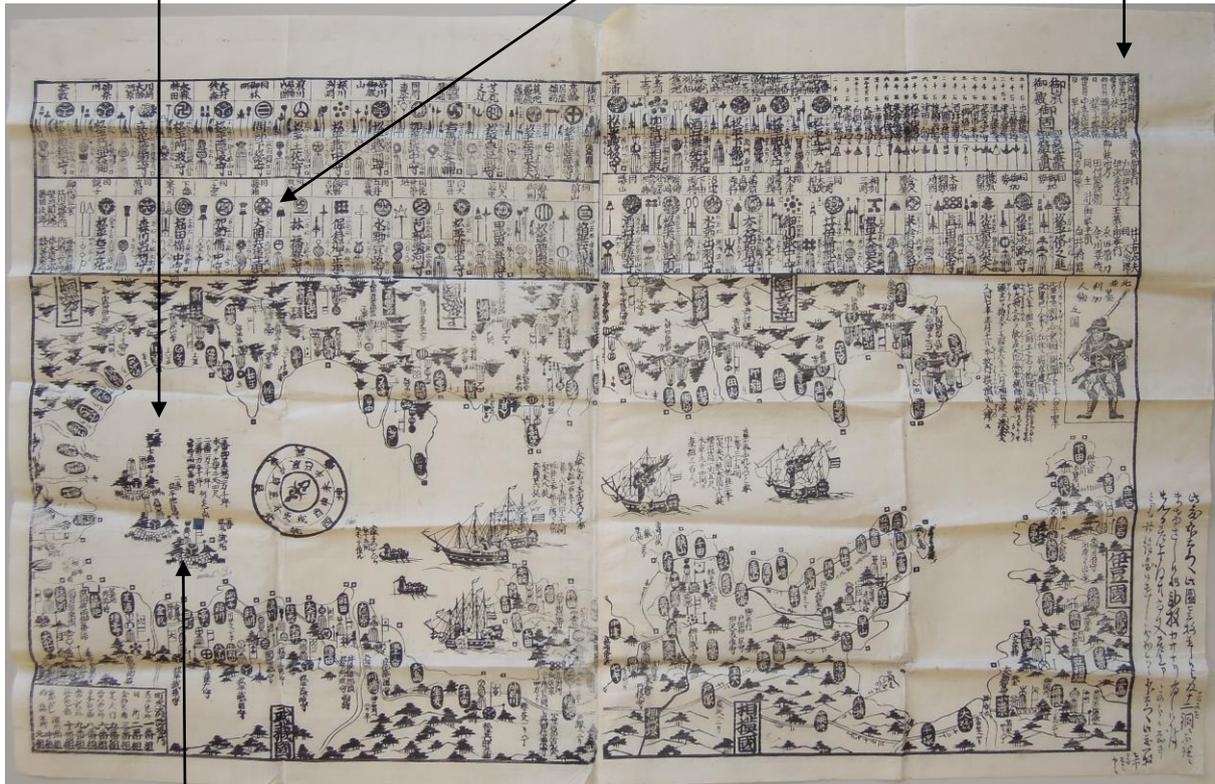
品川第三台場



祝園村の領主の一人である岩槻藩（現在のさいたま市）の「大岡兵庫頭」は、房総半島の勝浦を警固



ペリー一応対掛の「林大学頭」は、祝園村の領主の一人



C2327 の第一台場  
(修正あり)



C2321 の第一台場  
(修正なし)

森島家文書には、展示No.12の御固図（文書番号 C2327）と同じ瓦版がもう1点あるのですが（文書番号 C2321、未出展）、この2点の御固図には、品川第一台場（地図方位記号の左隣にある「一番松平誠丸」）の描き方に大きな違いがみられます。

展示No.12の御固図（C2327）では、第一台場を警固する武蔵国（現在の埼玉県）川越藩松平氏の旗のデザインが貼り紙で修正されています。藩からクレームでもあったのでしょうか？

<参考図版1>

あめりか  
瓦版 亜墨利加合衆国人物真像ノ図 ぺるり（「珍事集」の内）

京都府立総合資料館 蔵

ペリーの来航時、色々な顔つきをしたペリー像の瓦版が発行されました。絵師たちが想像して描いた顔は、実際とは異なるものがたくさんありました。この瓦版もその一つです。

\*参考図版1は京都府立総合資料館ホームページで閲覧できます。

私ハ、本当ハ  
コンナ顔デハ  
アリマセン!

